

平成12年国勢調査従業地・通学地集計結果の概要

平成12年10月1日現在で実施された国勢調査の従業地・通学地集計結果について、総務省統計局から札幌市分が公表されましたので、その概要を紹介します。なお、今回の結果数値は確定数であり、先に公表済みの要計表による人口（概数）とは異なっているため、留意願います。

1. 昼間人口

平成12年10月1日現在、札幌市の昼間人口は1,820,757人で、前回調査の7年（1,786,889人）に比べ33,868人、1.9%増加している。

このうち、市外から通勤・通学する流入人口は85,470人で、7年（89,058人）に比べ3,588人、4.0%の減少となっている。一方、市内常住者のうち、市外へ通勤・通学する流出人口は62,192人で、7年（54,318人）に比べ7,874人、14.5%の増加となっている。

この結果、流入人口と流出人口の差（流入超過人口）は、23,278人の流入超過となっており、

第1表 昼間人口の推移

年齢「不詳」を含まない。

各年10月1日現在						
年次及び区	昼間人口	常住人口	流入超過人口	流入人口	流出人口	昼夜間人口比率
昭和45年	1,036,046	1,010,123	25,923	33,819	7,896	102.6
50年	1,270,344	1,239,884	30,460	45,719	15,259	102.5
55年	1,433,137	1,399,962	33,175	56,915	23,740	102.4
60年	1,574,342	1,542,242	32,100	61,861	29,761	102.1
平成2年	1,698,926	1,665,169	33,757	74,558	40,801	102.0
7年	1,786,889	1,752,149	34,740	89,058	54,318	102.0
12年	1,820,757	1,797,479	23,278	85,470	62,192	101.3
中央区	374,423	172,602	201,821	229,554	27,733	216.9
北区	240,764	255,664	14,900	58,701	73,601	94.2
東区	228,803	248,901	20,098	48,923	69,021	91.9
白石区	189,457	194,479	5,022	53,495	58,517	97.4
厚別区	111,609	127,580	15,971	27,844	43,815	87.5
豊平区	175,279	200,078	24,799	43,510	68,309	87.6
清田区	87,568	109,407	21,839	15,461	37,300	80.0
南区	130,667	155,474	24,807	18,260	43,067	84.0
西区	174,654	197,638	22,984	37,162	60,146	88.4
手稲区	107,533	135,656	28,123	15,842	43,965	79.3

<資料> 総務省統計局「国勢調査」

第2表 流入・流出人口の増加状況

年齢「不詳」を含まない。

各年10月1日現在						
年次	流入人口		流出人口		流入超過人口	
	増加数	増加率	増加数	増加率	増加数	増加率
昭和45～50年	11,900	35.2	7,363	93.2	4,537	17.5
50～55年	11,196	24.5	8,481	55.6	2,715	8.9
55～60年	4,946	8.7	6,021	25.4	1,075	3.2
60～平成2年	12,697	20.5	11,040	37.1	1,657	5.2
2～7年	14,500	19.4	13,517	33.1	983	2.9
7～12年	3,588	4.0	7,874	14.5	11,462	33.0

<資料> 総務省統計局「国勢調査」

7年(34,740人)に比べて11,462人, 33.0%の減少となっている。また, 昼夜間人口比率(常住人口100人当たりの昼間人口)は101.3で, 7年(102.0)に比べて0.7ポイント低下している

2. 区別流入・流出人口

平成12年の流入・流出人口を区別にみると, 事業所が集中している中央区では, 流入人口が229,554人と他区に比べて群を抜いて多く, 流入超過人口も201,821人と10区中唯一, 流入超過となっている。一方, 他の9区はいずれも流出超過となっており, 市外常住者のほか, 市内常住者の従業地も中央区に集中していることが主な要因である。

昼夜間人口比率をみると, やはり中央区が216.9と圧倒的に高く, 10区中唯一100を超えている。他の9区では, 白石区が97.4, 北区が94.2などと比較的高くなっており, 手稲区が79.3と最も低くなっている。

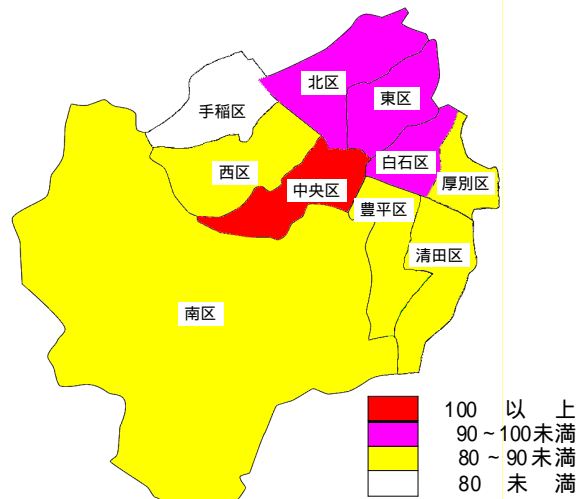
3. 他市町村からの流入人口

平成12年の流入人口を市町村別にみると, 江別市からの24,610人が最も多く, 以下, 石狩市(14,846人), 北広島市(12,449人), 小樽市(10,045人)などと続いている。流入人口を通勤者と通学者に分けてみると, 通勤者では江別市からの22,136人が最も多く, 以下, 石狩市(12,656人), 北広島市(11,026人)などと続いている。また, 通学者では江別市からの2,474人が最も多く, 以下, 石狩市(2,190人), 小樽市(1,572人)などと続いている。

次に, 7~12年の増加数をみると, 当別町(279人), 千歳市(244人)などでは増加しているが, 小樽市(マイナス1,883人), 江別市(マイナス705人), 石狩市(マイナス379人)など多くの都市で減少となっている。

また, 増加率をみると千歳市(10.1%), 当別町(8.9%)などは比較的大きな伸びを示しているが, 小樽市(マイナス15.8%)では大幅な減少を示している。

第1図 区別昼夜間人口比率
(平成12年10月1日現在)



注: 年齢「不詳」を含まない。
<資料> 総務省統計局「国勢調査」

第3表 他市町村からの流入人口

年齢「不詳」及び15歳未満を含まない。

市町村	平成7年	各年10月1日現在						12年割合(%)		
		12年			7~12年		総数	通勤者	通学者	
		総数	通勤者	通学者	増加数	増加率(%)				
総数	88,782	85,215	72,110	13,105	3,567	4.0	100.0	84.6	15.4	
江別市	25,315	24,610	22,136	2,474	705	2.8	100.0	89.9	10.1	
石狩市	15,225	14,846	12,656	2,190	379	2.5	100.0	85.2	14.8	
北広島市	12,656	12,449	11,026	1,423	207	1.6	100.0	88.6	11.4	
小樽市	11,928	10,045	8,473	1,572	1,883	15.8	100.0	84.4	15.6	
恵庭市	4,977	4,940	3,835	1,105	37	0.7	100.0	77.6	22.4	
岩見沢市	4,459	4,266	3,506	760	193	4.3	100.0	82.2	17.8	
当別町	3,119	3,398	2,748	650	279	8.9	100.0	80.9	19.1	
千歳市	2,411	2,655	1,744	911	244	10.1	100.0	65.7	34.3	
南幌町	1,062	1,122	992	130	60	5.6	100.0	88.4	11.6	
苫小牧市	968	1,044	653	391	76	7.9	100.0	62.5	37.5	
その他の市町村	6,662	5,840	4,341	1,499	822	12.3	100.0	74.3	25.7	

<資料> 総務省統計局「国勢調査」

流入人口の通勤・通学別割合をみると、ほとんどの市町村で通勤者の割合が8割を超えているが、苫小牧市（通勤者62.5%、通学者37.5%）、千歳市（通勤者65.7%、通学者34.3%）などでは通学者の割合が比較的高くなっている。

4. 他市町村への流出入口

市町村別に平成12年の流出入口をみると、石狩市への13,317人が最も多く、以下、江別市（10,548人）、小樽市（9,963人）、北広島市（9,283人）などと続いている。流出入口を通勤者と通学者に分けてみると、通勤者では石狩市への11,595人が最も多く、以下、小樽市（7,919人）、北広島市（7,908人）などと続いている。また、通学者では江別市への4,093人が最も多く、以下、小樽市（2,044人）、石狩市（1,722人）などと続いている。

次に、7～12年の増加数をみると、小樽市が1,808人と最も増加しており、これに江別市（1,116人）、石狩市（1,061人）などが続いている。

また、増加率をみると千歳市が31.6%で最も高く、以下、恵庭市（25.3%）、小樽市（22.2%）などが続いている。

流出入口の通勤・通学別割合をみると、通勤者の割合は苫小牧市（94.3%）、旭川市（93.7%）、千歳市（90.0%）などで高く、通学者の割合は当別町（43.6%）、江別市（38.8%）などで高くなっている。

5. 流入超過人口

札幌市の流入超過人口は、昭和60年の32,100人から、平成2年33,757人、7年34,740人とわず

第4表 他市町村への流出入口

年齢「不詳」及び15歳未満を含まない。

各年10月1日現在

市町村	平成7年	12年			7～12年		12年割合(%)		
		総数	通勤者	通学者	増加数	増加率(%)	総数	通勤者	通学者
総数	54,233	62,031	49,769	12,262	7,798	14.4	100.0	80.2	19.8
石狩市	12,256	13,317	11,595	1,722	1,061	8.7	100.0	87.1	12.9
江別市	9,432	10,548	6,455	4,093	1,116	11.8	100.0	61.2	38.8
小樽市	8,155	9,963	7,919	2,044	1,808	22.2	100.0	79.5	20.5
北広島市	8,276	9,283	7,908	1,375	1,007	12.2	100.0	85.2	14.8
恵庭市	2,555	3,201	2,529	672	646	25.3	100.0	79.0	21.0
千歳市	2,355	3,099	2,790	309	744	31.6	100.0	90.0	10.0
当別町	2,157	2,400	1,353	1,047	243	11.3	100.0	56.4	43.6
岩見沢市	1,567	1,660	1,288	372	93	5.9	100.0	77.6	22.4
苫小牧市	1,109	1,237	1,167	70	128	11.5	100.0	94.3	5.7
旭川市	498	574	538	36	76	15.3	100.0	93.7	6.3
その他の市町村	5,873	6,749	6,227	522	876	14.9	100.0	92.3	7.7

<資料> 総務省統計局「国勢調査」

第5表 流入超過人口の推移

年齢「不詳」を含まない。

各年10月1日現在

年次	流入超過人口			割合(%)		
	総数	通勤者	通学者	総数	通勤者	通学者
昭和50年	30,460	26,520	3,940	100.0	87.1	12.9
55年	33,175	30,398	2,777	100.0	91.6	8.4
60年	32,100	30,967	1,133	100.0	96.5	3.5
平成2年	33,757	31,980	1,777	100.0	94.7	5.3
7年	34,740	31,658	3,082	100.0	91.1	8.9
12年	23,278	22,341	937	100.0	96.0	4.0

<資料> 総務省統計局「国勢調査」

かながら拡大していたが、12年は23,278人と大幅に縮小した。

12年の流入超過人口の内訳をみると、通勤者が22,341人（全体の96.0%）、通学者が937人（4.0%）と圧倒的に通勤者が多くなっている。

また、常住市町村別に流入超過人口をみると、江別市の14,062人が最も多く、以下、北広島市（3,166人）、岩見沢市（2,606人）、恵庭市（1,739人）などと続いている。

これに対し、千歳市、苫小牧市などでは、それぞれ444人、193人の流出超過になっている。

第6表 他市町村からの流入超過人口

年齢「不詳」及び15歳未満を含まない。

			平成12年10月1日現在		
市	町	村	総数	通勤者	通学者
総	数		23,184	22,341	843
江別市			14,062	15,681	1,619
北広島市			3,166	3,118	48
岩見沢市			2,606	2,218	388
恵庭市			1,739	1,306	433
石狩市			1,529	1,061	468
当別町			998	1,395	397
南幌町			768	641	127
小樽市			82	554	472
苫小牧市			193	514	321
千歳市			444	1,046	602
その他の市町村			1,129	2,073	944

<資料> 総務省統計局「国勢調査」

6. 通勤・通学依存度

他市町村の札幌市への通勤・通学依存度（当該市町村に常住する15歳以上の就業者・通学者のうち札幌市で従業・通学する者の割合）をみると、平成12年の通勤・通学依存度が最も高いのは石狩市であり、同市の常住就業者・通学者29,868人のうち札幌市に通勤・通学している者は14,846人と全体の49.7%を占めている。

次に、北広島市が40.6%、江別市が37.0%と続き、以下、当別町（28.8%）、南幌町（21.0%）

第7表 市町村別札幌市への通勤・通学依存度（平成12年）

- 1 年齢「不詳」及び15歳未満の通学者は含まない。
- 2 通勤・通学依存度が10%以上を1次圏、3～10%未満を2次圏、3%未満を3次圏とした。
- 3 札幌市への流入人口が100人未満の市町村は省略している。

（単位 人、%）

平成12年10月1日現在

市町村	総数			通勤			通学		
	札幌市への流入人口	各市町村の常住就業者・通学者数	通勤・通学依存度	札幌市への流入通勤者	各市町村の常住就業者	通勤依存度	札幌市への流入通学者	各市町村の常住通学者	通学依存度
	(A)	(B)	(A)/(B)	(C)	(D)	(C)/(D)	(E)	(F)	(E)/(F)
1 次 圏									
石狩市	14,846	29,868	49.7	12,656	26,111	48.5	2,190	3,757	58.3
北広島市	12,449	30,661	40.6	11,026	26,051	42.3	1,423	4,610	30.9
江別市	24,610	66,448	37.0	22,136	53,595	41.3	2,474	12,853	19.2
当別町	3,398	11,780	28.8	2,748	9,676	28.4	650	2,104	30.9
南幌町	1,122	5,342	21.0	992	4,753	20.9	130	589	22.1
恵庭市	4,940	35,736	13.8	3,835	30,926	12.4	1,105	4,810	23.0
厚田村	203	1,503	13.5	153	1,397	11.0	50	106	47.2
小樽市	10,045	77,287	13.0	8,473	68,553	12.4	1,572	8,734	18.0
2 次 圏									
岩見沢市	4,266	44,036	9.7	3,506	38,960	9.0	760	5,076	15.0
長沼町	581	7,363	7.9	440	6,752	6.5	141	611	23.1
千歳市	2,655	49,916	5.3	1,744	45,165	3.9	911	4,751	19.2
栗沢町	125	4,002	3.1	98	3,669	2.7	27	333	8.1
3 次 圏									
余市町	331	12,356	2.7	192	10,792	1.8	139	1,564	8.9
三笠市	143	5,603	2.6	97	5,133	1.9	46	470	9.8
美唄市	385	16,185	2.4	221	13,993	1.6	164	2,192	7.5
栗山町	195	8,304	2.3	139	7,568	1.8	56	736	7.6

<資料> 総務省統計局「国勢調査」

の2町が20%を上回り、恵庭市（13.8%）、厚田村（13.5%）、小樽市（13.0%）の2市1村で10%を超えている。

なお、通勤依存度でみると、石狩市（48.5%）、北広島市（42.3%）、江別市（41.3%）が高く、通学依存度では石狩市（58.3%）、厚田村（47.2%）が高くなっている。

7. 従業地による産業大分類別就業者数

従業地による就業者数を産業大分類別にみると、平成12年では「サービス業」が287,331人で総数（873,401人）の32.9%を占めており、次いで「卸売・小売業，飲食店」（249,329人，28.5%）が続く、これら上位2産業で全体の約6割を占めている。また、この2産業を含む第3次産業就業者数は692,906人で、全就業者に占める割合は79.3%となっている。

次に、産業大分類別に就業者の流入及び流出状況を見ると、「サービス業」（流入21,942人，流出14,126人）、「卸売・小売業，飲食店」（流入17,547人，流出9,905人）など多くの産業で流入超過となっているが、「製造業」（流入4,897人，流出7,832人）などでは流出超過となっている。

第8表 常住地又は従業地による産業（大分類）別15歳以上就業者数

		平成12年10月1日現在							
産業（大分類）		実数				割合（%）			
		常住地 による 15歳以上 就業者数	流入 就業者数	流出 就業者数	従業地 による 15歳以上 就業者数	常住地 による 15歳以上 就業者数	流入 就業者数	流出 就業者数	従業地 による 15歳以上 就業者数
総	数	851,060	72,110	49,769	873,401	100.0	100.0	100.0	100.0
農	業	3,431	134	361	3,204	0.4	0.2	0.7	0.4
林	業	281	57	51	287	0.0	0.1	0.1	0.0
漁	業	77	4	37	44	0.0	0.0	0.1	0.0
鉱	業	620	43	78	585	0.1	0.1	0.2	0.1
建設	業	99,339	11,247	7,204	103,382	11.7	15.6	14.5	11.8
製造	業	57,819	4,897	7,832	54,884	6.8	6.8	15.7	6.3
電気・ガス・熱供給・水道業		4,734	531	334	4,931	0.6	0.7	0.7	0.6
運輸・通信業		65,804	8,130	6,551	67,383	7.7	11.3	13.2	7.7
卸売・小売業，飲食店		241,687	17,547	9,905	249,329	28.4	24.3	19.9	28.5
金融・保険業		28,055	2,392	769	29,678	3.3	3.3	1.5	3.4
不動産業		16,400	962	222	17,140	1.9	1.3	0.4	2.0
サービス業		279,515	21,942	14,126	287,331	32.8	30.4	28.4	32.9
公務(他に分類されないもの)		35,248	3,523	1,657	37,114	4.1	4.9	3.3	4.2
分類不能の産業 (再掲)		18,050	701	642	18,109	2.1	1.0	1.3	2.1
第1次産業		3,789	195	449	3,535	0.4	0.3	0.9	0.4
第2次産業		157,778	16,187	15,114	158,851	18.5	22.4	30.4	18.2
第3次産業		671,443	55,027	33,564	692,906	78.9	76.3	67.4	79.3

<資料> 総務省統計局「国勢調査」